

令和6年度 江戸川区立東小岩学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	◎よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	「夢や希望を育てる学び舎としての楽校」 ・子ども自身の夢や希望、子どもにかける家庭や地域の夢や希望を育てる学校 ・子どもにとって通うのが楽しい楽校（学校） ・「厳しく教え 温かく育てる」「信じて接し 愛して育てる」
前年度までの本校の現状	成果 ・全学年で外部人材との協働学習を実施し、幅広い人材から学ぶことで、子どもたちの興味・関心を高めることができた。 ・「本を活用した調べる学習コンクール」へ、全ての児童が参加し、本を活用して調べることの良さを体験的に理解する機会を確保できた。	課題	・行事のもち方や集会の実施など、子どもたち同士の関わり合いの機会をより充実させていくこと。 ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の在り方。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	「誰一人取り残さないための学力向上に向けたアクションプラン」の実施・充実	ベーシックドリル診断テスト正答率70%以上	A		A	1学期末の診断テストで平均正答率が70%を上回った。今回のテストに向けて、過去問題と個別の診断ファイルを活用し、正答率の向上に取り組んでいく。	A	タブレット端末も活用した家庭学習で、一人一人に合わせた取り組みを期待する。					
	読書科の更なる充実	全学年で12時間を本を活用した調べ学習に設定し、探究的な学習を行い、「本を活用した調べる学習コンクール」へ応募する。	「本を活用した調べる学習コンクール」参加率100%	B		B	9月末の作品完成に向けて、全学年が各学年に合ったテーマで調べ学習に取り組むことができています。	B	探究的な学習を通して児童の知的好奇心が高まることを願っている。たくさん本を読んで読書の楽しさに気付いてほしい。					
	「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	「江戸川っ子なわ跳び出前授業」の実施	「なわとびに楽しく取り組みましたか？」に対する肯定的評価80%以上	B		B	なわとびウィークの取り組みでは、一人一人が目標設定をして、なわとびにすすんで取り組むことができた。	B	なわとびに限らず、いろいろな運動に楽しく取り組める子どもたちになってほしい。					
体力の向上	個に応じた体力向上のための取組の実施・充実	・学期に1回のなわ跳び週間の設定 ・校内研修会の実施	80%以上の児童が江戸川区なわ跳びコンテストに参加	A		A	90%以上の児童が1学期のなわ跳びコンテストに参加した。教員の研修会を2学期に実施する予定。	B	一人一人目標があると意欲が高まってよいと思う自分のペースで楽しみながら取り組んでほしい。					
	共生社会の実現に向けた教育の推進	特別支援教育コーディネーターが中心になり管理職、心理士、SC、巡回指導教員の連携のもと、特別支援教育を進める。	特別支援打合せを毎月1回実施する。特別支援研修会を年3回実施する。	B		B	当初は特別支援打ち合わせに十分な時間が確保できなかったため、打ち合わせの順番を入れ替え、時間を確保した。校内委員会を3回開催し、支援に必要な児童の保護者に意向を伝えることができた。	B	これからも現在の取り組みを継続してほしい。					
不登校・いじめ対応の充実	豊かな心の育成	いじめアンケートを実施し、早期発見と早期解決を図る。	週に1回、全職員からの報告を行う。各学期に1回いじめアンケートを行い、いじめによる不登校を0にする。	B		B	いじめアンケートを活用することで、早期対応、早期解決につなげることができた。	B	学校に相談しやすい環境をこれからもつくってほしい。					
	教育相談の強化	関係機関との連携をとって、児童の健全育成を行う。（児童相談所、小岩警察署、こいわ学校サポート教室等）	不登校児童とのSC、SSW連携率100%	B		B	共通理解の時間を設けることで、学校全体としてサポート体制を整えることができた。	B	様々な関係機関と連携を取りながら進められていることは安心である。					
	hupaer-QUの活用	QUテストの児童の実態把握に基づいた指導の推進	年に1回校内でQU研修会を実施	B		B	QUを活用することで、児童のクラス内での状況を把握し、対応につなげることができた。	B	子どもたちの様子をいつもよく見て対応できている。わずかな変化も見逃さず対応してほしい。					
学校（園）開かれた地域社会の実現	学校（園）ホームページの充実等	学校ホームページにて情報を発信し、保護者、地域との連携を図る。	週1回以上、学校ホームページの更新を行う。	A		A	校務分掌や各学年の担当ごとに、学校行事や学習の様子をホームページで発信することができた。（1学期終了時78回更新）	A	HPの更新が多くあると、学校の様子をよく知ることができる。今後も積極的な発信を希望する。					
	学校関係者評価の充実	学校公開時にアンケートを実施し、授業改善につなげる。学校評議員会で学校の取り組みへの評価、検討を行う。	保護者アンケートの肯定的意見を80%以上にする。	B		B	学校公開や運動会後のアンケートでは多くの肯定的意見をいただいている。	A	今後も学校・地域・保護者で協力してよりよい学校をつくってほしい。					
教育の特色ある展開	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	「学校における働き方改革プラン」に基づき、学校業務の適正化を行う。	月の時間外勤務が4.5時間を超える教員を0にする。	B		B	5月～6月に、1時間程度の超過があった教員が2名いた。今後も学校業務の適正化を継続する。	B	今後も健康に留意して、教育活動にあたっていただきたい。					
	児童が自ら進んで挨拶できるようにする指導の充実	地域と連携した「あいさつ標語コンクール」に取り組み、意識を高める。白旗から教職員が率先して挨拶を行い範を示すことで児童の意識を高める。	あいさつ標語の作成に、全ての児童が参加する。児童アンケートで、「すすんで挨拶をすることができた」という肯定的な回答率を80%以上にする。	B		B	今年度も地域の「あいさつ標語コンクール」に全ての児童が参加した。	A	自然とあいさつができる子どもたちが増えとうれしい。お互いが気持ちよくなれる。					
	<キャリア教育の充実>・ゲストティーチャーや外部人材を活用した学習の推進	ゲストティーチャーや外部人材を招いたり、オンラインを活用したりした出前授業を実施する。	ゲストティーチャーや外部人材を活用した出前授業を全学年で年1回以上実施する。	B		B	1学期は租税教室（6年）や落語教室（4年）を実施した。本格的な実施は2学期なので、準備を進める。	A	ゲストティーチャーの活用は、専門的な技や知識に直接触れることができる良い機会なので積極的に行ってほしい。					